

< 21-16 >
2021年7月

先生各位

検査実施場所変更に伴う報告形式変更のお知らせ

「EGFRタンパク免疫染色」

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、株式会社LSIメディエンス社へ委託しております「EGFRタンパク免疫染色」の検査につきまして、迅速な検査体制が整い千葉細胞病理検査センターにて実施いたします。これに伴って報告書式が変更になりますのでご案内申し上げます。

「EGFRタンパク免疫染色」は大腸癌および頭頸部がん(舌癌を含む口腔がんおよび喉頭がん、咽頭がんなど頭頸部にみられるがんの総称)における分子標的薬セツキシマブの適切な投与を行うために用いられる検査です。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく今後も努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

■ 対象項目：

EGFRタンパク免疫染色

[項目コード: 3046]

■ 変更実施日：

2021年8月2日(月)受付分より

以上

※ 変更内容の詳細につきましては、次ページ以降をご覧ください。

●EGFRタンパク免疫染色

EGFR(Epidermal Growth Factor Receptor:上皮増殖因子受容体)は、悪性腫瘍内においてはその増殖・浸潤・転移に重要な役割を果たすほか、細胞のアポトーシス抑制や血管新生にも関与しています。

EGFR過剰発現を呈する悪性腫瘍は一般に予後不良とされています。このEGFRを標的とする分子標的薬がセツキシマブ(商品名:アービタックス)です。

当該検査は分子標的薬セツキシマブの適切な投与を行うために用いられる検査です。

項目コード	3046
項目名	EGFRタンパク免疫染色
検査方法	免疫組織化学染色法
提出材料	大腸癌、頭頸部がんの未染標本スライド*1 4枚
保 存	室温
所要日数	5 ~ 10日
保険点数	690点*2 (「N002」EGFRタンパク免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製)
病理判断料	150点
備 考	<p>*1: 【未染標本スライドでご依頼の場合】</p> <p>10%中性緩衝ホルマリン固定パラフィンブロックをもちいます。4 μ mに薄切し、シランなどのコーティングスライドの中央に貼付け、約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出下さい。スライドには患者名、検査番号等を明記して下さい。</p> <p>注1:ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。</p> <p>注2:切片の厚さ、伸展条件、保存状態などにより検査不適となる場合があります。</p> <p>【パラフィンブロックでご依頼の場合】</p> <p>患者名、検査番号等を明記しご提出下さい。</p> <p>未染標本スライド作製のため所要日数がかかりますので、営業担当者までご確認ください。</p> <p>注:ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。</p> <p>【組織でご依頼の場合】</p> <p>採取後速やかに10%中性緩衝ホルマリン固定に浸漬し、固定時間6時間以上72時間以内です。尚、生検材料の場合、依頼書に固定液に浸漬した時間をご記入下さい。</p> <p>検査依頼時に、病理診断書(コピー)の添付をお願いします。添付できない場合には、依頼書に病理診断名(組織型等)の他、臨床情報など可能な範囲で記載をお願いします。</p> <p>なお、弊社で病理検査を実施している場合は不要です。</p> <p>*2: 免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製は、病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。</p>

◆判定基準

判 定	
EGFR 陽性	染色態度が連続性あるいは不連続性にかかわらず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。(染色標本における腫瘍細胞の陽性率 >0%)
EGFR 陰性	全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。(染色標本における腫瘍細胞の陽性率は0%) ^{注)}

注)腫瘍細胞の細胞膜にわずかでも陽性シグナルが認められた場合、判定は「陽性」となります。

染色態度(全周性、連続性)や染色強度は問われません。

●変更箇所概要:

赤丸で囲っている部分の変更を行っております。

218999904	EGFRタンパク免疫染色判定報告書			(1/1) 1P △
施設名: 00200-A-01234	○○○○○○○	病院 (見本)	殿	
氏名: 千葉 太郎		様	男	62才
生年月日: 1958年06月03日				
カルテNo:		担当医:		採取日: 2021年05月30日
院内区分:		入院	外科	受付日: 2021年05月30日
臨床診断: 大腸癌				材料: 大腸
				保険点数: 690点

判定結果: EGFR陽性

写真 強拡大

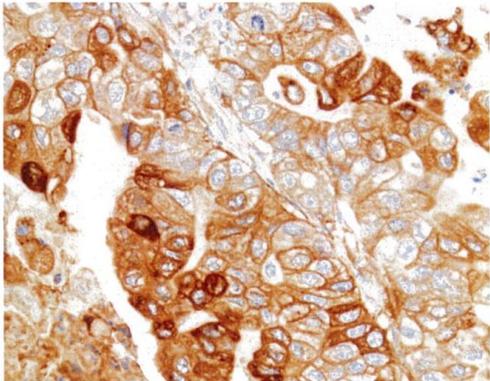
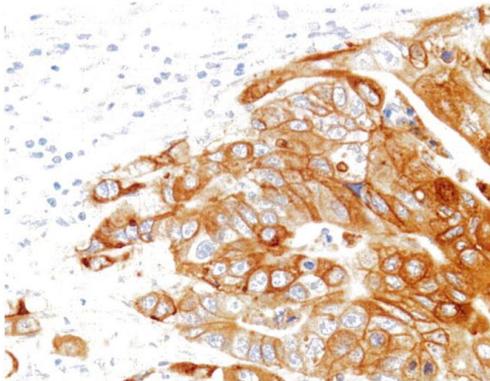


写真 強拡大



コメント:
染色態度が連続性あるいは不連続性にかかわらず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。(染色標本における腫瘍細胞の陽性率>0%)

EGFRタンパク免疫染色判定基準

EGFR陰性 全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。
(染色標本における腫瘍細胞の陽性率は0%)

EGFR陽性 染色態度が連続性あるいは不連続性にかかわらず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。
(染色標本における腫瘍細胞の陽性率>0%)

注) 腫瘍細胞の細胞膜にわずかでも陽性シグナルが認められた場合、判定は「陽性」となります。染色態度のシグナルパターン (全周性、連続性) やシグナル強度は問われません。

判定日: 2021年06月06日

病理医: サンプル

(株)サンリツ
㈱千葉細胞病理検査センター

(本報告記事の公表に関しては、署名者にご相談ください)